

視覚障害とは

視覚障害には、まったく見えない「全盲」、見えにくい又は多少は見える「弱視」、特定の色がわかりにくい「色弱」があります。

見えにくさも、「細部が見えない」「視野が狭い」「視野の一部が欠けている」など様々で、周囲の明るさなどの環境によっても異なります。



参考：スポーツ東京インフォメーション
https://www.sports-tokyo-info.metro.tokyo.lg.jp/sasaeru/shospomanual/disability_sports01.html

☆コミュニケーションの配慮とポイント

視覚障害のある人すべてが白杖の使用や盲導犬の同伴をしているわけではありません。困っている人がいたら、「こんにちは」、「何かお困りではないですか？」などと声をかけましょう！

白杖を挙げていたら
困っているサインです！



・背後から話しかける



背後から話しかけられても誰に向かって話しかけているのかわかりません。

誰に声を掛けて
いるんだろう？



チェンジ！！

・相手の斜め前から話しかける



相手の名前を呼んでから話しかけたり、自分の名前や肩書を名乗ったりすると安心してもらえます

声を掛けて
くれて
助かった



受付です、何か
お困りでは
ないですか？

・いきなり手をとって誘導する



いきなり手をとると不安や恐怖を感じてしまいます



案内しますね!!

肩をかしてください

・支援が必要か確認する



「何かお手伝いしますか？」と確認しましょう



・指示語を使う



「この用紙に・・・」「あのドアを・・・」チェンジ!!



指示語では何を指しているのわかりません。



こちらに印鑑をお願いします

お願いします

・具体的に伝える

「お手元の利用申請用紙に・・・」



具体的な説明やクロックポジションを活用してみましょう



お手元にある書類 印鑑をお願いします お手伝いしますか?



音声から多くの情報を得ています。雑音のない場所、音が反響しない場所で話すとスムーズにコミュニケーションがとれます!



【クロックポジション】



相手の正面を「12時の方向」右手を「3時の方向」など、時計の文字盤に見立てて説明することも有効です。

【盲人のための国際シンボルマーク】



このマーク知ってる!?

世界盲人連合で制定された盲人のための世界共通のマークです。視覚障害者の安全やバリアフリーに考慮された建物、設備、機器などにつけられています。

【白杖SOSシグナル】



白杖を頭上50cm程度に掲げてSOSのシグナルを示している視覚に障害のある人を見かけたら、進んで声をかけて支援しようという運動の普及啓発シンボルマークです。